

松田町・河津桜祭りと早春の南足柄の里を歩く

田中嘉文（横浜市）

期 間：2013年3月1日（金）（日帰り）

参加者：21名 **参加費**：2,300円

リーダー：田中嘉文

午前10時、小田急線の栢山（カヤマ）という小さな駅の広場に、だれひとり遅れることなく勢ぞろいしました。迎えてくれたのは「足柄観光ガイド会」の皆さん。21人に対し何と8人ものガイドさんが付き添ってくださるといふ特別待遇です。

曇天から雨に変わるという予報でしたが、集合時には薄陽も射し始め、足取りも軽く尊徳記念館に向かってスタートしました。小川に沿って、畑地の中を気持ちよく歩きます。右手に見える大雄山の連なりからは杉花粉が霧のように立ちのぼっていました。風向きが逆だったら花粉症の人は大変だったことでしょう。

【予定のコース】

- 午前10時 栢山駅から徒歩（約1km）で町中を抜けて尊徳記念館へ（館内見学）
- 午前11時頃 酒匂川の平坦な土手を約3km歩いて開成駅へ
- お昼前頃 開成駅前からシャトルバスで瀬戸屋敷へ（約10分）
瀬戸屋敷の雛祭りを見学の後、地元特製の郷弁（さとべん）で昼食
- 午後1時半頃 約1時間（約3km）歩いて松田町へ戻り、シャトルバスで松田山・ハーブガーデンハウスへ。
河津桜と菜の花畑を散策
- 午後3時頃 徒歩で山を下り、松田駅近くの中澤酒造へ。酒蔵見学とお酒の試飲を楽しみます。
- 午後4時頃 新松田駅で解散

尊徳記念館

20分ほどで二宮尊徳の記念館に着きました。



二宮尊徳の生家の前で

隣には藁ぶきの生家もあります。尊徳は誰でも知る偉人ですが、ここ足柄の人とは余り知られていないようです。

また、尊徳の功績を尊敬してやまない真珠王・御木本幸吉が、後に尊徳の威徳を称えて、この地に史跡を残した話も、初めて聞く人が多かったようです。

瀬戸屋敷と雛人形



見応えのあった雛飾り

瀬戸屋敷とは、酒匂川（さかわかわ）沿いの開成町一帯の名主を務めた瀬戸家の屋敷で、江戸時代の農村文化を今に伝える重要文化財です。江戸時代に大名家から当家に輿入れの時に持参した雛人形や、小田原藩主の家紋の入った雛飾りなどが多数あります。毎年2月中旬から雛祭りが催され、地元婦人会手作りの7千個ものつるし雛と一緒に飾られています。

きらびやかな飾り物の数の多さにも圧倒されますが、古民家の風情とも相まって、大変見応えのある雛祭りでした。

ここから酒匂川まで約3km近くをのんびりと歩きました。家並みと畑地が交互に現れますが、早春の風と香りも味わいながら、気持ちの良いウォーキングでした。

酒匂川岸に着くと河原に臨時のバス停があり、河津桜祭りの会場までシャトルバスが運行されています。ただし、この日は平日のため運休日。ところが何と、足柄観光ガイドの会ではバス会社と交渉して、我々のために臨時バスが用意されていました。その行き届いたサービスに、一同は驚きと感謝の拍手でした。

松田山・河津桜まつり

バスは15分かけて、小田急線、JR御殿場線、東名高速をくぐり急な坂道を登ります。その途中で河津桜の並木が現れます。低温続きのため開花にはいまひとつと聞いていたところ、チラホラ開き始めていました。期待が高まる中、桜まつり会場の松田山ハーブガーデンに着きます。

南向きの斜面に立つと、河津桜と菜の花畑越しに酒匂川を挟む平地が開け、先ほど歩いた道や瀬戸屋敷、尊徳記念館辺りも遠望できます。その先には小田原の街と相模湾まで見渡せ、さらに右手には雪をかぶった富士山の雄大な姿が……

となるはずだったのですが、にわかには暗雲が広がり、冷たい風が吹き始め、遠望もいまひとつ。富士山は雲の向こうにお隠れになってしまいました。丘の上では肝心の河津桜もほとんどツボミのままでした。残念！ここで団体記念写真の予定でしたが、とてもそんな雰囲気にならず、予定を早めて歩いて下山となりました。



松田山・河津桜の向こうに広がる酒匂川
(本来なら見えるはずの風景)

最後は新松田駅近くの中澤酒造に立ち寄り、甘酒で体を温め、利き酒でいい気分になり、お世話になった足柄観光ガイドの会の皆様に感謝を申し上げつつ、集合写真を撮って解散と相成りました。



足柄観光ガイドの会の皆さんと